



生きた教材に学ぶ考古学調査演習 今年度は新遺跡発掘に挑戦！

大学院社会産業理工学研究所
社会総合科学域教授
中村豊（なかむらゆたか）



中村先生のゼミのみなさん。



石器作りに使う石は中村先生自らが採ってきたもの。青色片岩は高越山、タガネ&ハンマー用の石は鮎喰川で採取してきたそうです。

体験を通して考古学へ誘い 学生の興味を引き出す

遺跡調査や石器作りなど、体験できる考古学を主として、生きた教材に学ぶ考古学調査演習。徳島公園に遺跡踏査へ行くことも多いのですが、取材日は雨だったので縄文時代と同じ手法で石器を作るところを見せていただきました。

この日使用したのは青色片岩という徳島県特有の石。眉山や高越山で採取でき、新町川添いの護岸にも使われている、いわゆる青石です。石の目に添って、タガネ用の石をあて、ハンマー代わりの石で叩いて割り、その後磨いて仕上げます。青色片岩を使った石器は、兵庫や大阪でも出土していることから、青色片岩の丈夫さが重宝され、いにしえの人に愛用されていたことが分かります。

このように体験を多く取り入れた授業を行う理由は「事前に論文を読んで来なさい」というのも重要ですが、大学に入ってから地域の歴史や文化財に興味を持つ学生が対象となるため、やる気も湧かないだろうと、できるだけ生きた教材に触れる機会を増やし、自ら興味を持って取り組めるような授業を行っています。

発見なるか？ 那賀町で新遺跡発掘に挑戦

ここ数年、徳島市南佐古周辺の三谷遺跡の調査を行っていたのですが、それが一段落したので、今年度から新たな遺跡調査をはじめめることに。まだ手つかずの遺跡を掘り当てようと、狙いを定めたのは那賀町木沢小島の岩陰。県内の遺跡や考古学に詳しい徳島県立博物館の高島元館長と共に過去の資料を調査し、地域の理解や協力が得られるかどうかといった点も踏まえて、決めたのですが、那賀町木沢といえば、阿波のチベツトといわれる山奥。そんなところに遺跡はあるのでしょうか？「山間部には遺跡がないってよく

言われるんですけど、そんなことはなくて、最近愛媛県など、標高の1000m近いところでも遺跡が見つかっています。山間部は街中と違い、開発によって掘り起こされることはないで、見つける機会がないだけ。うまくいけば縄文時代の遺跡を発掘できるかもしれないので、この機会に地域の人と関わり、地元の人に関心を持ってもらうような遺跡調査をできたらな、と思っています。」

か可能性は高いといえます。「かつては生活の拠点は山だったので、狩猟に便利な山の中に集落が生まれ、次第に文明化してくると交易が始まり、人間が行き交う交易のルートができ、その中継地ができる」といった流れを考えると、あの辺りは今より人通りが多かったかもしれません。木沢って県南や上勝、神山、木屋平にも道が繋がっているんで、そうしたことから期待できるんじゃないかと思っています。」

初心者への慎重さと若い目が 発見の鍵！

那賀町での新遺跡発掘プロジェクトの開始は冬頃を予定している



三谷遺跡で見つけた土器。



ヤジリ。



装飾に使われていたと思われるビーズは、発掘調査初体験の女子学生が見つけたもの。お見事！

大学から歩いて行けるといってもあって学生と共に徳島城公園へは100回以上行っているのですが、行く度に新しい発見があるといえます。「主には城と貝塚を見ているんですけど、海でしか採れない貝が落ちていたりすると、徳島城公園は海から大分離れているので、海水面が変わったんだとか、人が貝を持ち運んだ証だとか、その時、その時の発見が学生にとってすごく勉強になっていると思います。」

